



学校だより

6月号

令和4年5月31日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「本物に触れて」

学校長 後藤 直樹

修学旅行2日目、6年生の子どもたちは好天の中、戦場ヶ原の木道を歩きました。コロナ禍のため、小学校で初めての宿泊行事がこの修学旅行となった学年ですので、何としても実施したいと、強く願っていました。まだ5月の中旬ということで修学旅行シーズンとしては少し早かったこともあり、日光は空いていました。子どもたちは新緑の大自然や、世界遺産東照宮の荘厳なたたずまいを心に刻むことができましたと思います。

行事や体験的な活動が、ことごとく制約を受けてきたこの2年間を経て、改めてその大切さを認識させられた気がしています。4月の入学式の中で、こんな話をしました。小学校の6年間は、法律で18歳となった成人まで、ちょうど中間の6年です。私はこの期間の体験や経験が、後の思考判断の基礎になると考えています。ですから、できるだけ書物や視聴覚教材だけに頼ることなく、実体験を伴った経験を積ませることを大切にしていきたいと考えます。青空の下、ぼんやりとこんなことを思い出しながら戦場ヶ原の木道を歩きました。

さて2年生はというと、例年の取組としてプール清掃の前にヤゴを救出しました。今年は捕獲したヤゴの多くがギンヤンマでしたので、子どもたちは皆、目を輝かせていました。実はこれほど大きなヤゴがたくさんいたのには理由があります。それは秋に技術員の二人がプールの水面に刈り取ったススキの葉を浮かべてくれていたのです。ギンヤンマが産卵をするためには、水面近くに着陸できる足場が必要です。とても飛行能力が高いので、成虫になると観察どころか見つけることすら難しいトンボです。これから次々に羽化を迎えるギンヤンマの美しいエメラルドグリーンの体を目の前で観察することもまた、記憶に残る貴重な体験となるに違いありません。



新緑の木道を歩く6年生



ギンヤンマのヤゴ
体長は5cmほど



夢中でヤゴを探す2年生